

# 令和2(2020)年度 事業報告書

(令和2(2020)年4月1日から令和3(2021)年3月31日まで)

## 1 概要

本財団は1945年4月4日に財団法人海洋化学研究所(文部省所管)として設立され、2012年4月1日に一般財団法人海洋化学研究所(京都府所管)へ移行し、2016年9月1日からは、公益認定を得て一般財団法人から京都府所管の公益財団法人となり、2017年12月21日からは、変更認定を得て内閣府所管の公益財団法人となった。

本財団は、事業目的である「海洋化学に関する研究、助成及び奨励をなし、その発展を図ることを目的」として(公1)～(公3)の事業を行う。

賛助会員の数は、個人会員が106名、学生会員が9名、法人・団体会員が5法人である。

法人の主たる事務所は、京都府宇治市の京都大学化学研究所内に置く。その他の事務所はない。

法人の役員は、評議員4名、理事5名、監事2名である。

法人の職員は、常勤職員が1名である。

## 2 (公1) 学術助成金の事業

海洋化学に関する研究、助成および奨励をなしその発展を図るため、その分野における研究者に学術助成金を支給する事業を行った。

助成金の種類は、以下の2種類である。

ア 海洋化学に関する研究者(大学院生以上の学生も含む。)向けの、研究助成金。以下、「研究助成金」と言います。

金額 1件150万円以下 年数件

イ 海洋化学に関する研究者(大学院生以上の学生も含む。)向けの、海外の大学、研究機関、学会、シンポジウム等への海外渡航費に関する助成金。以下、

「海外渡航費に関する助成金」と言います。

金額 1件 30万円以下 年数件

これに基づき、助成金への応募を、2020年11月14日から2021年2月5日まで、財団のホームページ、及び、本財団発行の研究所報「海洋化学研究」を用いて、呼びかけた。

本助成金の受領者などを決める選考委員会のメンバーは、以下の6名である。

加藤義久(東海大学名誉教授)

左右田健次(京都大学名誉教授 兼 本財団評議員)

中西正己(京都大学名誉教授 兼 本財団評議員)

廣瀬勝己(元気象庁気象研究所地球化学研究部部長)

蒲生俊敬(東京大学名誉教授)

宗林由樹(京都大学教授 兼 本財団代表理事)

2021年2月20日、選考委員会が開催され令和3年度助成金の受領者の選考答申が行われ、この答申結果は、2021年3月13日に理事会にて承認された。助成金の受領者は、以下のとおりである。

#### ア 研究助成金 (6名、合計 6,290千円)

代表者氏名	代表者所属・職名	研究題目	助成金額(千円)
高巢裕之	長崎大学総合生産科学域(環境科学領域)・助教	有明海における陸起源溶存態有機物の栄養塩再生ポテンシャルの評価	900
岩瀬海里	京都大学化学研究所・技術職員	水圏環境におけるパラジウム、白金、金の分析方法の開発	930
遠藤 寿	京都大学化学研究所附属バイオインフォマティクスセンター・助教	海洋植物プランクトンの共生的相互作用がもたらす生態化学量論の改変とその機構	1,120
八田真理子	海洋研究開発機構地球環境部門(北極環境変動総合研究センター)・副主任研究員	プログラミングマイクロフローインジェクション法を用いた高塩分ブライン水の分析への挑戦	940
眞塩麻彩実	金沢大学理工研究域物質化学系・助教	紫外線照射分解による環境水中の溶存態白金濃度への影響解明	1,200
高野祥太郎	京都大学化学研究所・助教	河川水、海水中 Ag 同位体比分析法の開発	1,200
		小計	6,290

イ 海外渡航費に関する助成金（1名、合計 210 千円）

代表者氏名	代表者所属・職名	渡航目的・渡航先	助成金額（千円）
八田真理子	海洋研究開発機構地球環境部門（北極環境変動総合研究センター）・副主任研究員	Pacificchem 2021 (Pacificchem 2020 に招待されていたが、コロナのために延期)にて、“Programmable flow injection with a long light path flow cell enhances sensitivity for spectrophotometric determination.” についての研究発表と学術交流、及びハワイ大学にて研究交流するため 渡航先：ホノルル，米国	210
小計			210

※なお、令和2年度助成金支給決定者であった、下記陳卓然は、下記学会がオンライン開催とされたため、助成金の受給を辞退した。そのため、本年度の助成金支給総額は、6,290 千円+210 千円-250 千円=合計 6,250 千円となった。

代表者氏名	代表者所属・職名	渡航目的・渡航先	助成金額（千円）
陳卓然 (辞退)		Goldschmidt2020 学会にて “Distributions of dissolved trace metals (Al, Mn, Fe, Co, Ni, Cu, Zn, Cd, and Pb) during GEOTRACES Japan KH-17-3 cruise in the subarctic North Pacific Ocean.”についての研究発表と学術交流 渡航先：ホノルル，米国	250 (辞退)
小計			250 (辞退)

### 3 (公2) 学術講演会の事業

海洋化学に関する研究、助成及び奨励をなしその発展を図るために、その分野における第一人者を招き、京都府内において、広く一般人にも開かれた講演会を開催する事業である。

以下の講演会を実施した。

#### 第40回石橋雅義先生記念講演会

2020年4月25日(土)午後1時30分～午後5時、京都大学楽友会館にて開催を予定したが、コロナウィルス感染症対策のため休会。

#### 74周年秋季講演会

2020年11月16日(土)午後1時30分～午後5時10分、京都大学楽友会館にて開催。

講演会に先立って以下の者に、学術賞及び奨励賞を与えた。

- 第35回海洋化学学術賞を富山大学学術研究部理学系・教授 張 勁に授与
- 第4回海洋化学奨励賞(40歳未満)を広島大学大学院・准教授 岩本洋子及び海洋研究開発機構・技術研究員 杉江恒二の2名に授与
- 第4回海洋化学海洋化学奨励賞(30歳未満)を京都大学理学部博士 辻阪 誠に授与

続いて、受賞者が講演を行った。演題、講演者は以下のとおり。

- 第4回海洋化学奨励賞受賞記念講演
  - U30(30歳未満)  
「堆積物中モリブデンおよびタングステン安定同位体比分析法の開発と日本海古海洋環境の復元」 京都大学理学部博士 辻阪 誠氏
  - U40(40歳未満)
    - ◇ 「海洋大気エアロゾルの沈着・生成とその気候影響に関する研究」 広島大学大学院・准教授 岩本洋子氏
    - ◇ 「海洋化学環境と植物プランクトンの動態応答に関する研究」 海洋研究開発機構・技術研究員 杉江恒二氏
- 第35回海洋化学学術賞受賞記念講演  
「化学トレーサーの複合的活用による大気海洋の物質循環の解明」 富山大学学術研究部理学系・教授 張 勁氏

出席者 41 名

### 京都化学者クラブ講演会

楽友会館にて開催。化学という分野に着目した、市民向けの学術講演会。「化学者クラブ」という名称であっても、別に、「化学者クラブ」との団体があるわけではなく、主催団体は、本財団である。

年	月日	題目	講演者	所属
2020	4月4日	コロナウィルス感染症対策のため休会		
2020	5月9日	コロナウィルス感染症対策のため休会		
2020	6月6日	砂糖の科学と文化史；あれこれ	左右田 健次	京都大学名誉教授
2020	7月4日	フラーレン (C60) の光化学反応を利用した化学電池と水素発生	樋上 照男	信州大学名誉教授・特任教授
2020	8月1日	海の流れと地球の自転	吉川 裕	京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻准教授
2020	9月5日	明らかとなってきた D-アミノ酸の機能	吉村 徹	名古屋大学大学院生命農学研究科教授
2020	10月3日	3D プリンタによる XRF 分光器の製作	田中 亮平	京都大学大学院工学研究科材料工学専攻助教
2020	12月5日	遠隔山岳地域の湿性沈着中の微量元素	山本 祐平	徳島大学大学院社会産業理工学研究部助教
2021	2月6日	in situ 抽出剤生成法の誕生から将来展望まで	藤永 薫	金沢工業大学客員教授
2021	3月6日	電波で挑む雷放電と雷雲の科学	森本 健志	近畿大学理工学部電気電子工学科教授

#### 4 (公3) 学術情報提供の事業

海洋化学に関する学術情報の流通を促すことで、海洋化学に関する研究、助成及び奨励をなし、その発達を図るべく、学術研究誌出版事業としての「海洋化学研究」の発行、及び、本財団のホームページ運営を行った。

海洋化学研究（第33巻1号）を2019年4月25日に発行。内容は、以下のとおりである。

種類	タイトル	著者
巻頭言	電気化学と海水への純金の溶解—化学と空想のはざままで	北條正司
総合論文	北極海—太平洋における放射性ヨウ素 I-129 の分布 —加速器質量分析法による人為起源の長寿命放射性核種の分析—	永井尚生
月齢卓話	マイクロ波化学を楽しもう！ 第三章 —電子レンジで楽しむマイクロ波化学反応のいろいろ—	松村竹子
月齢卓話	赤外分光法：40年間での大きな進歩	長谷川健
月例卓話	中国古代の煉丹術における鍮銅（黄銅）の生成と賢者の石	尾関徹
月例卓話	同位体環境学と同位体地図を用いた研究の展開	陀安一郎
月例卓話	日本最古の暦：スズ暦とアスズ暦の仕組（神代および初代神武天皇から第13代成務天皇まで）	梶慶輔
月例卓話	神経伝達物質が関与する塩味の作用をだまして健康に	植野洋志
月例卓話	ハンガリーにおける科学と技術の歴史	向山毅
学術助成報告	伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	鄭臨潔
学術助成報告	伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	辻阪誠
学術助成報告	伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	西川遼
学術助成報告	伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	長谷川浩
学術助成報告	伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	南秀樹
学術助成報告	伊藤光昌氏記念学術助成金（研究助成）成果報告書	宗林留美
学術助成報告	伊藤光昌氏記念学術助成金（海外渡航助成）成果報告書	藤原由大
学術助成報告	伊藤光昌氏記念学術助成金（海外渡航助成）成果報告書	土屋真緒

海洋化学研究（33巻2号）を2020年11月16日に発行。主要な内容は、以下のとおりである。

巻頭言	海洋科学研究者への期待を込めて	平木敬三
-----	-----------------	------

月例卓話	マイクロ波化学を楽しもう！ 第四章——マイクロ波加熱の仕組みの理解——	松村竹子・増田嘉孝
月例卓話	放射性セシウムの生態系への影響とカイコを用いた評価系について	木野内忠稔・田中草太
月例卓話	地磁気とオーロラ	荒木徹
月例卓話	医薬品の工業化研究, 製造における分析技術の寄与と現状	上田正史
月例卓話	砂糖の科学と文化史	左右田健次
月例卓話	フラレン (C60) の光化学反応を利用した化学電池と水素発生	樋上照男

本財団のホームページ運営事業においては、「海洋化学研究」の掲載論文をホームページからも見られるようにし、また、財団からのお知らせ（助成金・講演会・出版等）も掲載した。

URLは、<http://www.oceanochemistry.org/>

以上

**令和2(2020)年度  
事業報告書の附属明細書**

(令和2(2020)年4月1日から令和3(2021)年3月31日まで)

本年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものではありません。

以上